

印刷文化賞



山口 政廣

昭和 12 年 5 月 28 日 生
共同印刷株式会社 相談役
印刷工業会 顧問

●略歴●

昭和 63 年 6 月 共同印刷(株) 取締役
平成 6 年 6 月 同 専務取締役
平成 7 年 6 月 同 取締役副社長
平成 8 年 6 月 同 代表取締役社長
平成 18 年 6 月 同 取締役会長
平成 22 年 6 月 同 相談役 (現在に至る)

●団体歴●

平成 8 年 8 月 (社) 日本印刷産業連合会 常任理事就任
平成 14 年 5 月 印刷工業会 副会長就任
平成 14 年 6 月 (社) 日本印刷産業連合会 副会長就任
平成 19 年 5 月 印刷工業会 会長就任
平成 19 年 6 月 (財) 印刷図書館 理事長就任
平成 19 年 6 月 (社) 日本印刷産業連合会 会長就任
平成 19 年 7 月 (社) 日本経済団体連合会 理事就任
平成 22 年 5 月 印刷工業会 顧問就任 (現任)
平成 22 年 6 月 (社) 日本印刷産業連合会 顧問就任 (現任)

●表彰歴●

平成 14 年 2 月 (社) 日本印刷学会功労賞

●推薦理由●

昭和 60 年、印刷業界の総合的発展を目的とした社団法人日本印刷産業連合会の設立に、設立準備会・作業部会の委員として参画、行政との折衝等に尽力するなど果たした功績は大きい。平成 8 年より業界団体の要職を歴任し、平成 19 年に印刷工業会並びに日本印刷産業連合会会長、印刷図書館の理事長に就任以降は、3 年間に亘り業界のリーダーとして、印刷産業の振興発展及び業界の地位向上に努めた。

特に、平成 19 年には「第 2 回世界印刷技術者会議」を開催、その後も China Print や FAGAT での基調講演をはじめ国際会議に出席するなど、積極的に国際交流を推進した。また、同 19 年には、日本印刷産業連合会がプライバシーマーク付与認定機関の認可を取得、JIS 規格準拠のガイドラインを制定するなど、業界として個人情報を適切に取扱う体制を強化した。同時に、印刷産業を取り巻く環境変化に対応するため、会員団体との連携強化や、カーボンフットプリント、電子書籍等への取組みについて卓越した指導力を発揮した。



野村 正道

昭和 3 年 3 月 1 日 生
宝印刷株式会社 顧問
全日本印刷工業組合連合会 顧問

●略歴●

昭和 27 年 (株)宝商会 取締役
昭和 35 年 宝印刷(株) 代表取締役社長
平成 14 年 同 代表取締役会長

●団体歴●

昭和 57 年～平成 2 年 東京都印刷工業組合 副理事長
昭和 57 年～平成 2 年 全日本印刷工業組合連合会 常務理事
昭和 63 年～平成 2 年 (社)日本印刷産業連合会 理事
平成 6 年～平成 10 年 東京都印刷工業組合 理事長
平成 6 年～平成 10 年 全日本印刷工業組合連合会 会長
平成 6 年～平成 10 年 (社)日本印刷産業連合会 副会長
平成 10 年～平成 16 年 全日本印刷工業組合連合会 理事
平成 16 年～現在 全日本印刷工業組合連合会 顧問

●表彰歴●

平成 3 年 (社) 日本印刷産業連合会表彰 (印刷振興賞)
平成 10 年 (社) 日本印刷産業連合会表彰 (印刷功労賞)
平成 13 年 東京都知事表彰 (中小企業功労)
平成 14 年 勲四等瑞宝章

●推薦理由●

昭和 57 年以来業界団体の要職を歴任、中小印刷業界の指導に尽力し、印刷産業の振興発展に多大な貢献を果たした。

特に平成 6 年から 10 年まで全日本印刷工業組合連合会会長として、設備共済制度の創設、中小印刷業界の後継者 (青年部) 育成、公正取引確保の推進、第 4 次構造改善計画の推進に向けた電子化・高付加価値化の実現などを推進する一方、行政への協力として、平成 7 年、通商産業省中小企業近代化審議会紙業部会印刷業分科会委員、中小企業庁中小企業政策審議会官公需小委員会委員、平成 8 年には労働省職業能力開発審議会委員などを歴任した。

日本印刷産業連合会においては、昭和 63 年に理事就任、平成 6 年からは副会長として統括的な運営にあたるなど、大手印刷団体と中小印刷団体の連携に尽力、印刷産業界全体の発展に果たした功績は高く評価される。

印刷功労賞



小森 善治

昭和 14 年 6 月 27 日生
株式会社小森コーポレーション
代表取締役会長兼社長
一般社団法人 日本印刷産業機械工業会
会長

● 略歴 ●

昭和 42 年 4 月 (株)小森印刷機械製作所 取締役
昭和 54 年 8 月 小森印刷機械(株) 常務取締役
昭和 62 年 7 月 同 専務取締役
平成 5 年 4 月 (株)小森コーポレーション 代表取締役社長

● 団体歴 ●

平成 5 年 5 月 (社)日本印刷産業機械工業会 副会長
平成 12 年 5 月 同 会長 (現在)
平成 12 年 5 月 印刷機材団体協議会 会長 (現在)
平成 17 年 5 月 経済産業省中小企業政策審議会 委員 (現在)

● 印刷関連団体役員歴 (現職) ●

平成 2 年 5 月～ (社)日本印刷学会 評議員
平成 2 年 5 月～ (社)日本印刷技術協会 常務理事
平成 13 年 6 月～ (財)印刷図書館 理事
平成 18 年 6 月～ (学)日本プリンティングアカデミー 常務理事

● 表彰歴 ●

平成 9 年 4 月 藍綬褒章 (産業振興功績)
平成 15 年 2 月 (社)日本印刷学会功労賞
平成 19 年 5 月 経済産業大臣表彰 (社団法人日本印刷産業機械工業会 創立 70 周年記念功労)
平成 21 年 11 月 旭日中綬章

● 推薦理由 ●

平成 5 年 5 月に日本印刷産業機械工業会副会長、平成 12 年 5 月に同会長に就任し現在に至る。平成 21 年 10 月には印刷機械のメンテナンスによる品質管理を前提としたデジタル化 (数値化) による印刷色の標準化を推進する Japan Color 認証制度を立ち上げた。平成 23 年 9 月には、さらに「マッチング認証」、「ブルーフ機器認証」、「ブルーフ運用認証」も立ち上げ、「印刷ビジネスを世界で展開する際の共通のメジャー」としての国際提案を視野に進めている。

また昨年、世界 10 カ国の印刷機械工業会「グローバルプリント」の第二代会長に選任され、今後の世界の展示会のあり方等、世界の印刷機械産業の共通の課題や問題点について日本から提案・問題提起している。このように最高指導者として我が国の印刷機械産業の振興発展と業界の基盤強化のために育成、発展、地位向上に努めるとともに工業会の事業活動に献身的に指導し、尽力している。

更に、平成 23 年 3 月の東日本大震災の際は、印刷産業機械業界の陣頭に立ち、被災した印刷会社の迅速な復旧に向けての各種支援に尽力するなど、その卓越した指導力は高く評価される。



中田 久士

昭和 17 年 3 月 19 日生
成旺印刷株式会社
代表取締役社長

印刷工業会

● 推薦理由 ●

平成 6 年に印刷工業会の常任理事及び総務委員会委員に就任以来、長年に亘り団体運営に携わり振興発展に貢献した。さらに日本印刷産業連合会では、平成 6 年理事に就任、同年から平成 11 年まで総務委員会委員として事業運営に努め、平成 12 年には新設の環境委員会委員に就任し、環境問題に積極的に取り組み、環境保全ならびに安全衛生向上に尽力、印刷産業界の発展に寄与した功績は顕著である。



松井 達二

昭和 19 年 11 月 18 日生
株式会社電通テック
顧問

印刷工業会

● 推薦理由 ●

日本印刷産業連合会及び印刷工業会常任理事を平成 18 年より務め、団体活動へ積極的に参画し業界発展に尽力した。同年に日印産連の広報委員会委員長に就任し「印刷産業のイメージ調査」をインターネットで行うなど、広報・宣伝活動を通じて印刷産業界の活動を広く社会一般に対して周知向上を図った。またカレンダー、ポスター、カタログ等を対象に優秀作品を募りコンクール展を開催し業界の活性化に貢献した。

印刷功労賞



岩尾 純一

昭和 23 年 2 月 3 日生
株式会社一九堂印刷所
代表取締役社長

印刷工業会

●推薦理由●

平成 10 年から印刷工業会の「教育・研究部会」の部会長を務め、部会の活性化に寄与した。また、平成 12 年より日本印刷産業連合会の国際委員会の委員を務め、平成 13 年からは海外動向研究会でグローバルスコープの編集に携わり、海外の印刷業界を調査し、日本の印刷産業へ対する指針を示すなど、印刷産業界の発展に果たした功績は多大である。



西井 幾雄

昭和 20 年 4 月 14 日生
株式会社NPCコーポレーション
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

現在、全印工連副会長、大阪府工組理事長の要職を務める。また、今日まで近畿地区印刷協議会会長、経営革新・マーケティング委員会副委員長などを歴任。特に組織財政改革特別委員会委員長として「組織・財政改革に関する答申」を発表し、全印工連の組織強化と財政基盤の改革に大きな貢献を果たした。日印産連においても、現在、常任理事を務めるなど印刷産業界の発展に尽くした功績は多大である。



小松 義彦

昭和 20 年 1 月 9 日生
小松印刷株式会社
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

現在、全印工連参与。平成 12 年に全印工連理事に就任、その後、組織・情報委員会委員、業態変革推進企画室委員、四国地区印刷協議会会長などを歴任。全印工連の中心事業である業態変革推進プランの計画立案・促進への取り組みや、四国地区印刷協議会の組織強化などに大きな貢献を果たした。また、資機材対策役員として、資機材値上げ問題に全印工連を代表して対応にあたるなど卓越したリーダーシップを発揮している。



荒川 龍治

昭和 10 年 8 月 18 日生
誠文社印刷株式会社
代表取締役会長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

平成 12 年に全印工連理事に就任、平成 14 年から平成 16 年まで全印工連常務理事を務める。この間、経営委員会委員、取引条件改善部会委員、組織情報委員会委員などを歴任。特に平成 14 年からは共済事業委員会委員長に就任し、各種共済事業の推進に尽力し、全国組合員へ対する福利厚生の上向上に多大な貢献を果たした。日印産連においても監事、理事を歴任するなど、印刷産業界への功績は顕著である。



笹氣 幸緒

昭和 17 年 7 月 22 日生
笹氣出版印刷株式会社
代表取締役社長

日本フォーム印刷工業連合会

●推薦理由●

平成 6 年に東北フォーム印刷工業会の会長に就任するとともに、東北地区の代表として日本フォーム印刷工業連合会理事に就任し、15 年に亘り常任理事、東北会長の要職を務め、常に先頭に立って業界の振興発展と地位向上に大きな役割を果たした。特に、今回の東日本大震災に対しては自社も大きな被災を受けながら、前会長として佐久間会長を支えて、東北フォーム印刷工業会の通常運営に大きく寄与した。



柳田 道

昭和 21 年 10 月 13 日生
富士プリント株式会社
代表取締役

社団法人 日本グラフィックサービス工業会

●推薦理由●

平成元年、ジャグラ青年部である SPACE-21 創立時から幹事を務め、平成 3 年代表幹事に就任、青年部行事の充実を図った。本部では平成 10 年より理事、常任理事、副会長を歴任した。その間、特に市場開発に尽力し、郵政事業とのコラボ事業を推進したほか、NPO 法人日本自費出版ネットワークと共同で自費出版の電子書籍化を図る自費出版デジタルを開設するなど、その功績は顕著である。



常川 和勇

昭和 18 年 5 月 18 日生
株式会社常川製本
代表取締役社長

全日本製本工業組合連合会

●推薦理由●

全製工連副会長、東京工組副理事長の要職を務め、この間、中小企業人材確保推進事業の担当副理事長として職場環境の改善等に尽力したほか、製本機械オペレータ養成講座の充実化や個人情報保護体制認定制度の導入に貢献した。平成 20 年に全製工連副会長に就任し、全国製本業の経営基盤の確立に貢献した。また日印産連の技術委員会、経営労働委員会等の委員を務め、印刷産業の発展に貢献した。



松井 博司

昭和 24 年 3 月 10 日生
株式会社コトブキ企画
代表取締役社長

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会

●推薦理由●

経営環境の激しい変化に適応したソフトウェア開発や生産技術の改良に努め、業界内のビジネスモデルを構築、提供するなど業界の先導的な企業経営を確立している。

多年に亘って GCJ 副会長、GC 近畿理事長等の要職を歴任、その重責を担う。積極的に組合の各種事業活動を推進、円滑な組織運営と育成の任にあたった。業界組織の活性化、財政基盤強化に尽力し、その礎に大きく寄与した功績は顕著である。

印刷功労賞



河合 貴之

昭和 30 年 6 月 14 日生
株式会社三共シール
代表取締役社長

全日本シール印刷協同組合連合会

●推薦理由●

平成 11 年 6 月より全日本シール印刷協同組合連合会の理事に就任し、現在に至るまで 12 年務めた。その内の 7 年間は連合会の副会長を務め、連合会の改革に寄与した。この間、名古屋で開催された第 51 回年次大会では、連合会副会長・担当協組理事長として大会の成功に尽力した。また、シール印刷業界において廃業や脱退が多い状況下で「組織の強化」にも尽力した功績は大である。現在、日印産連の市場調査委員会のメンバーとしても活躍。



安永 研二

昭和 31 年 11 月 8 日生
東包印刷株式会社
代表取締役社長

全国グラビア協同組合連合会

●推薦理由●

今日に至るまで、日印産連の数々の委員会委員を歴任し、活発な業界活動を行う。特に、改正大気汚染防止法への対応には、環境省「揮発性有機化合物(VOC) 排出抑制対策検討会」において、中小零細のグラビア印刷事業者の実態を主張し、その救済、生き残りが可能な政策の策定に努力した。また、CO₂ 排出削減に付随する省エネ、カーボンフットプリント、節電と環境保全等に関する同氏の知見は、業界の推進役として大きな役割を果たしている。



西田 勇一

昭和 16 年 2 月 6 日生
福泉工業株式会社
代表取締役

全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会

●推薦理由●

長年に亘り連合会の中核にあって、運営活動を推進し組合活動に尽力。特に国際委員長としてアジア、欧米の業界組織との交流を積極的に推進し、ASGA（アジアの組織）会長の要職を務めるなど、グローバルな領域の業界発展に大きく寄与した。また関西地方の組織拡大を図り、大阪組合を西日本スクリーン・デジタル印刷協同組合として誕生させた功績は高く評価されている。



杉浦 克彦

昭和 28 年 5 月 9 日生
杉浦紙工株式会社
代表取締役

全日本光沢化工紙協同組合連合会

●推薦理由●

全日本光沢副会長として業界運営に務める一方、多年に亘り中部光沢化工協組理事、副理事長、理事長の要職にあって、中部地区業界の組織強化・振興発展に尽力。また、中部地区に数少ない光沢専門業者として地方独自の加工技術に関わり、研究開発に精励し、環境配慮型粘着製品等の特殊加工に技術開発力を発揮、中部地区の商業印刷技術を確立した功績は大きい。

印刷振興賞



高倉 真

昭和 22 年 1 月 15 日生
大日本印刷株式会社
研修部 理事

印刷工業会

●推薦理由●

印刷・製本の生産性改善に努め、二度の海外勤務で、日本の印刷技術のアジア移転を図った。近年は、環境負荷軽減の印刷はコスト上も優位であり、環境と両立する印刷改良を主導し、業界発展に貢献した。



本田 城二

昭和 28 年 2 月 9 日生
元共同印刷株式会社
CSR本部 マネジメントシステム推進部担当部長

印刷工業会

●推薦理由●

長年に亘り、日印産連等の環境関連委員会の委員を歴任。印刷サービスグリーン基準の策定、環境優良工場表彰制度の推進、VOC 排出抑制自主行動計画の策定等に尽力するなど、業界の発展に貢献した。



米沢 隆

昭和 26 年 3 月 13 日生
図書印刷株式会社
執行役員 第二出版営業統括本部長

印刷工業会

●推薦理由●

長年に亘り出版印刷の営業を勤め、出版ニーズに対応した印刷市場開拓に尽力した。さらに印刷工業会出版印刷部会の副幹事長、幹事長を歴任し、出版業界との信頼関係強化を図り、出版印刷市場の発展拡大に貢献した。



小澤 祐二

昭和 30 年 1 月 11 日生
江川紙バック株式会社（日本紙バック㈱）
取締役製造部長

印刷工業会

●推薦理由●

勤続 38 年間に亘り、液体・食品用紙容器の印刷を含む技術全般に携わり、改善及び技術の向上に努めた。又、卓越した指導力により後進の育成に尽力し、会社の技術レベル向上に大いに貢献した。



田那辺 壽史

昭和 29 年 8 月 3 日生
北越パッケージ株式会社
ビジネスフォーム部 副部長

印刷工業会

●推薦理由●

オフセット印刷業界ではトップレベルの技術があり、また職業訓練指導員免許、1 級印刷技能士の資格を有し、さらに茨城県首席技能検定委員として後進技能者（1 級技能検定に 2 名、2 級技能検定に 11 名合格者を輩出）の指導育成に貢献した。



幸田 雅廣

昭和 28 年 1 月 28 日生
株式会社リーブルテック
取締役営業本部長

印刷工業会

●推薦理由●

入社以来 製造および営業部門で会社の発展、後進の育成に尽力し大きな成果を挙げる。また平成 12 年 9 月より 10 年以上に亘り教科書印刷部会幹事長として新たに発足した部会の礎を築き、業界の発展に果たした役割は顕著である。

印刷振興賞



工藤 裕史

昭和 21 年 11 月 8 日生
田宮印刷株式会社
相談役

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

山形工組理事長、全印工連理事の要職を務める。この間、構造改善推進委員会委員、組織・財政問題特別委員会委員を務め、全印工連第 4 次構造改善事業の立案・推進、組織財政基盤の強化などに果たした功績は大きい。



谷口 譲二

昭和 21 年 8 月 17 日生
日ノ丸印刷株式会社
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

鳥取工組理事長、全印工連理事の要職を務める。この間、中国地区印刷協議会幹事、全印工連財政問題検討特別委員会委員、組織・財政問題特別委員会委員などを歴任し、業界の組織財政基盤強化に果たした功績は顕著である。



中曾根 達幸

昭和 19 年 2 月 15 日生
株式会社旭堂
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

沖縄工組理事長、全印工連理事の要職を務める。この間、沖縄工組の牽引役として、全印工連 2005 計画から 2008 計画までを積極的に推進し、沖縄工組組合員の業態変革の礎を築くなど、業界の振興発展に努めた功績は多大である。



新 精一

昭和 22 年 11 月 30 日生
たつみ印刷株式会社
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

多年に亘り埼玉工組理事長、全印工連理事の要職を務める。この間、埼玉工組理事長として組合の運営強化を図り、また、全印工連においては組織・財政問題特別委員会委員として組織財政対策に尽力した功績は顕著である。



久保 徳康

昭和 24 年 5 月 20 日生
有限会社みちや印刷所
会長

全日本印刷工業組合連合会

●推薦理由●

高知工組理事長、全印工連理事の要職を務める。この間、全印工連共済事業委員会委員として、各種共済制度の研究と拡充に努め、全国組合員の福利厚生の上を図るなど、業界の振興発展に寄与した功績は多大である。



川口 亨

昭和 19 年 12 月 13 日生
三条印刷株式会社
代表取締役社長

日本フォーム印刷工業連合会

●推薦理由●

北海道地区において 44 年間ビジネスフォーム印刷の発展に尽力。平成 15 年に北海道フォーム印刷工業会理事に就任、平成 20 年には同工業会の会長並びに、日本フォーム印刷工業連合会の常任理事に就任するなど、業界の発展に多大な貢献をした。



高宮 静之

昭和 28 年 2 月 10 日生
株式会社エヌ・ユー・エス
常務執行役員

日本フォーム印刷工業連合会

●推薦理由●

平成 17 年より事業の傍ら 6 年 4 カ月に亘り関東フォーム印刷工業会常任理事を歴任。この間、地域の副支部長を併せて歴任し、組織の活性化と業界の振興、地位向上に尽力した功績は顕著である。



小林 勝弘

昭和 19 年 1 月 20 日生
株式会社信陽堂
代表取締役

社団法人 日本グラフィックサービス工業会

●推薦理由●

埼玉県支部長として会員の退会防止を図るなど、組織の安定的な運営を実現してきた。また、地域の振興にも尽力した。本部役員としては総務事業を担当し、業界の運営基盤確立に多大な功績を残した。



山田 義弘

昭和 27 年 2 月 23 日生
清堀写真製版株式会社
代表取締役社長

日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会

●推薦理由●

多年に亘り企業経営に携わる傍ら、業界組織の要職を歴任し、現在 GCJ 副会長・GC 近畿理事長として活躍。全国及び近畿地区の業界組織の振興に努めるとともに、各種事業の推進を通じ、組織基盤づくり尽力した功績は多大である。



青木 滋

昭和 24 年 6 月 4 日生
西武写真印刷株式会社
代表取締役

社団法人 日本グラフィックサービス工業会

●推薦理由●

平成 2 年より常任理事に就任し、経営基盤確立事業を積極的に推進した。特に OA 化の進展を背景に「デジタル入稿ガイドブック」「データ加工と処理のすべて」等を刊行し、業界のデジタル化推進に貢献した。



丸山 啓一

昭和 22 年 10 月 25 日生
有限会社丸山裁断製本所
代表取締役

全日本製本工業組合連合会

●推薦理由●

長年に亘り東京工組の理事を務め、東京工組が運営する東京製本高等技術専門校のカリキュラムの策定、設備の充実化など円滑な事業運営に尽力。さらに同校の講師を長年務め、製本技能者の育成に貢献した。



石塚 千吾

昭和 22 年 9 月 6 日生
株式会社全国グラビア分析センター
代表取締役社長

全国グラビア協同組合連合会

●推薦理由●

全国グラビア分析センターの技術部長、代表取締役社長を歴任。同センターにおいては、グラビア組合員の作業環境測定・VOC 排出測定等を精力的に行い、組合員の健康管理及び大気への VOC 排出削減に果たした功績は顕著である。

印刷振興賞



小林 雅明

昭和 14 年 5 月 13 日生
株式会社プロセスコパヤシ
代表取締役

全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会

●推薦理由●

昭和 39 年の起業以来、スクリーン印刷加工技術の開発に努力し、スクリーン印刷の多様性を広げることへ貢献。更に、近年はアナログとデジタル技術を融合させ、あらゆる素材の分野で顕著な実績を挙げるなど、業界の仕事領域拡張に功績を残すとともに、組合活動にも多大に貢献。



特別賞

東京スクリーン・デジタル印刷協同組合 青年部グループ 201

全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会

●推薦理由●

東京スクリーン・デジタル印刷協同組合傘下の若手自主活動グループ「青年部グループ 201」（代表者・嶋雅浩）は、平成 6 年度以来 18 年間に亘り、東京スクリーン・デジタル印刷協同組合新年会において、財団法人アイメイト協会の盲導犬育英資金としての募金活動を行い、累計額で 120 万円余りを同協会に寄付した。

同グループの長年に亘るこうしたチャリティ活動は、視聴覚障害者の社会復帰援助に多大に貢献する活動であり、印刷産業界の社会貢献の具体的な実践として高く評価されるものである。

